

小規模校における活性化の取組

現「県立高等学校活性化計画」において、人口減少や生徒数の大幅な減少が見込まれる中、地域の担い手育成や若者の地域への定着などの地方創生の視点もふまえ、魅力ある教育と学校づくりを進めてきました。

1 学年3 学級以下の小規模な高等学校においては、学校ごとに活性化協議会を設置して、市町関係者、地元産業界の地域関係者と学校の魅力向上とそれに伴う入学者の増加をめざして具体的方策を協議し、地域の状況、学校・学科の特色などをふまえ、「活性化プラン」を策定して、地域と一体となった活性化の取組を推進してきました。

【学校別協議会を設置している高校：9 校 10 校舎】

白山高校（津市）、飯南高校（松阪市）、昴学園高校（大台町）
南伊勢高校南勢校舎（南伊勢町）、南伊勢高校度会校舎（度会町）
鳥羽高校（鳥羽市）、志摩高校（志摩市）、水産高校（志摩市）
あけぼの学園高校（伊賀市）、紀南高校（御浜町）

1 活性化の取組

（1）地域と連携した教育の充実

（地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業等：R 1～3 年度）

地域の小規模校を実践パイロット校に指定し、高校生が地域の課題や産業を題材に、地域住民や職業人と関わりながら探究的に学ぶ地域課題解決型キャリア教育に取り組んでいます。取組を通じて生徒が地域への愛着や誇りを高め、その地域で活躍できる将来像をイメージすることや将来にわたって学び続けることのできる能力・資質の育成もめざしています。

各パイロット校には、地域と学校をつなぐコーディネーターが巡回し、各校の学習活動の支援、地域の方々や職業人とより深く関わる学習環境の整備等をサポートしています。

各パイロット校は学校の実情に応じて育てたい生徒の力を明確にし、教育課程に位置づけて実施しています。生徒は、個人またはグループで、地域産業、観光、地域学など、テーマを設定し、

- ・地域のプロフェッショナルからの講義
- ・実際の現場において業務を体験
- ・市場調査・先進地調査の実施／それらに基づいた商品開発
- ・長期休業期間を利用した業務の体験や実験販売
- ・県内外の先進地において同様のテーマに取り組む高校生と交流などの学習や活動を通じて地域の課題解決に取り組んできました。

○ 特徴的なカリキュラムの設定

- ・ 新しく設置した「地域創生アドバンスコース」での「地域探究」「地域課題研究」などの科目において、地元企業の方々や町長をはじめとする行政関係者からの講話や対話などから地域を学び、探究活動につなげています。(南伊勢高校南勢校舎)
- ・ 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受けて、カリキュラム開発に取り組んでいます。「産業社会と人間(1年生)」で、地域産業や観光資源のフィールドワーク等を通じて地域を知り、課題を見つけ解決策を考察し、「キャリアデザイン(2年生)」で、地元企業でのインターンシップ等を通じて、過疎地域での企業経営等の工夫や努力、展望等について学び、3年生の「いいなんゼミ」では、さらに研究を深めてレポートをまとめ、「いいなんゼミ発表会」において地域の方々等に学習の成果を発信しています。(飯南高校)
- ・ 志摩市や地域の協力を得ながら、「総合的な探究の時間」を活用し、生徒全員が3年間にわたってフィールドワークやインターンシップ等で地域を知り、地域で体験し、地域課題の解決策について考える「志摩学」での探究活動に取り組んでいます。(志摩高校)
- ・ 学校設定科目「鳥羽学」では、毎時間鳥羽市のサポートを得ながら、海女文化の学習・魅力発信や中心市街地活性化等について考える授業を展開しています。(鳥羽高校)
- ・ 学校設定科目「地域産業とみかん」では、地域の協力を得ながら、地域の特産品みかんの栽培から流通までの過程や、関連する産業について、体験活動を通じて体系的に学ぶとともに、課題解決力やコミュニケーション力を育む探究的な学びに取り組んでいます。(紀南高校)
- ・ カリキュラムの設置時に比べて取組に魅力を感じる生徒が減ってきたことなどから、選択する生徒が少なくなる事例もあり、課題となっています。

○ 他校や他県の先進校との交流等

地域の特産物を利用した他県の先進的な取組をしている学校を訪問し、意見交換など生徒同士の交流をしたり(紀南高校)、三重テラスにおいて、生徒が開発に取り組んだ新商品のPR活動や販売実習を行ったりしました(あけぼの学園高校)。コロナ禍の中で、オンラインも活用し、先進的な地域活性化取組を行っている他県の高校と交流・協働してPRポスターを作成するなどJR名松線の活性化をめざす取組もはじめています(白山高校)。

また、夏季休業中に開催されている全国高校生 SBP 交流フェア(Social Business Project:伊勢市で開催)に生徒が参加し、地域資源を生かした課題解決型のプロジェクト学習に意欲的に取り組む全国の高校生と交流しました。

※ 参加校:南伊勢高校南勢校舎、同度会校舎、飯南高校、白山高校、あけぼの学園高校、紀南高校、昴学園高校

○ 各地域での成果発表会の開催

各校は、年度末に地域の方々を招いて成果発表会を開催し、学習の成果を発信・PRするとともに、次年度の取組の改善につなげています。コロナ禍の中、より多くの地域の方々に参加いただくことが課題となっています。

(2) 課外活動

○ 授業等で地域学習や地域課題の解決に興味・関心を持った生徒たちが、課外活動として地域に貢献する活動をはじめており、地域でのボランティア活動への参加や地域イベントで自分たちが作成したプロジェクトマップングの上映など活動は広がりを見せています。(南伊勢高校南勢校舎、同度会校舎、昴学園高校、紀南高校等)

○ 地域研究サークル「とぼっこくらぶ」では、鳥羽市観光課や定期船課と連携した地域活性化の取組を行ったり、観光甲子園全国大会への参加(入賞)や他府県高校との交流等の活動を続けています。(鳥羽高校)

○ 「道の駅コラボプロジェクト」として連携中学校と一緒に活動したり、地域を盛り上げることを目的に活動している学校のサークル活動(応援団活動)において地域の企業とコラボレーションした「木の手帳」の開発に取り組んだり、地域の大きな課題である空き家問題の解決に取り組んだりするなど、地域のさまざまな団体と連携した活動を実施しています。(飯南高校)

(3) 高校生地域創造サミットの開催

高校生が地方創生や地域活性化の重要性について理解し、地域のことを主体的に考え行動する意欲や地域とともに課題解決に取り組む姿勢を身につけられるよう、平成29年度から高校生地域創造サミットを開催しています。サミットでは、高校生が地域の課題を題材として、フィールドワークや他県・他地域の高校生とのディスカッションを行い、高校生ならではの発想による「地域を活かした」解決策を多様な考えに触れながら検討します。

これまでに、南伊勢町(H29)、鳥羽市(H30)、紀北町(R1)で開催し、県内の県立や私立高校および県外高校生に加え、大学生サポーター等も参加しました。今年度は、松阪市飯南飯高地域での開催を予定しています(令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)。

(4) 市町からの小規模校支援策

各学校が活性化に取り組む中、地元の市町から小規模校への様々な支援が実施されています。

町内から南勢校舎に通学する生徒への町内バスの無料化や下校バスの増便、南勢校舎から大学等への進学者への給付奨学金の設立(南伊勢町:南伊勢高校南勢校舎)、海外研修参加者への経済的支援等(志摩市:志摩高校)、内閣府事業「高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業」への参画、県

外生や地域留学生のための保証人の確保等（大台町：昴学園高校）、学校活性化に向けたコンソーシアムの結成やフィールドワークでの支援等（松阪市：飯南高校）、「鳥羽学」の授業支援等（鳥羽市：鳥羽高校）、通学の利便性向上のためのコミュニティバス整備（津市：白山高校）など、各地域において小規模校の学習活動等を支援する体制が構築されました。

（５）学校の情報発信・PR活動

全ての小規模校において、学校の活性化の取り組みを地域住民、地域の小中学生やその保護者へPRするために、地域の広報誌等への定期的な記事掲載、地域への学校通信やコミュニティ通信等の配布、学校ホームページの更新やSNSでの情報発信、生徒や教員による小学校への出前講座や交流活動等、さまざまな広報活動に取り組みました。

地域における学校への理解は進み、評価は上がってきたものの、入学者の増加にはつながりにくい状況です。

（６）県外からの生徒募集活動

- 県外からの入学者の増加をめざして、全ての小規模校において「保護者の転住を伴わない県外からの志願者の受入制度」を設け、以下の学校で県外からの入学につながりました。

学 校 名	入学者数		
	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
白山高校	6	6	2
昴学園高校	-	3	9
あけぼの学園高校	1	-	-
紀南高校	1	5	2

- 地域の小規模校で学ぶ全国で魅力を紹介するイベント「地域みらい留学フェスタ」（一般社団法人：地域・教育魅力化プラットフォーム主催）に、昴学園高校（令和元年度～）と飯南高校（令和2年度～）が参画し、県外からの生徒募集活動を行いました。

※「地域みらい留学」を活用した県外からの入学生

昴学園高校：令和2年度入学生3人、令和3年度入学生9人

飯南高校：令和3年度入学生0人

- 全国的な動きの中、より魅力的な教育活動を進める必要があるとともに、下宿などのハード面の整備に課題があります。

2 生徒の進路実現の状況

(1) 基礎学力の定着に対する取組・状況

- 基礎学力の定着に向けて、国・英等の授業での習熟度別の丁寧な学習指導、SHR等での学習タイム、基礎力診断テスト結果に応じた課外授業での個々への丁寧な指導等により、特に基礎・基本養成レベル（D3）の生徒を中心に多くの学校で基礎学力診断テストの結果が向上しました（志摩高校、あけぼの学園高校、昴学園高校、南伊勢高校度会校舎、白山高校等）。また、水産高校ではAIドリルを活用し、生徒の学力や速度に応じた個別最適化学習を数学と英語の授業で導入しました。
- 専門性を高めて知識や技術を身につけるとともに生徒の自己肯定感を高め、希望する進路が実現できるよう、資格取得に向けた学習活動を進めています。（水産高校、あけぼの学園高校）

(2) 就職支援に対する取組・状況

- 地域学習やインターンシップ等の取組により、生徒の地域や地域産業等への理解は進みましたが、多くの学校で地元企業への就職状況等に目立った変化は見られませんでした。
- 南伊勢高校南勢校舎では、町の支援により就職活動支援員が配置され、就職者のうち町内企業への就職者の割合は増えています。水産高校では、全就職者に占める水産・海洋分野への就職者の割合は上昇傾向にあり、全寮制の昴学園高校では、地元大台町出身者以外の生徒で、卒業後に大台町内の企業に就職する事例もみられました。

(3) 進学支援に対する取組・状況

- 地域の協力による看護体験実習や医療看護講座等により、毎年一定数、医療分野の上級学校への進学者がいます。また、進学グループの設置により校内で進学意識が高まり、地元の小学校教員を目指す生徒が地域推薦入試にて三重大学教育学部に進学しました。（志摩高校）
- 町の支援による進学課外授業や大学進学給付型奨学金の補助制度を活用することで大学への進学者が増加しました。その中には地元の教員を目指して地域推薦入試にて三重大学教育学部に進学した生徒もいました。（南伊勢高校南勢校舎）

○ 「いいなんゼミ」で生徒が研究した地域での学び・テーマをより深く学ぶために大学等へ進学する実例が増えています。(飯南高校)

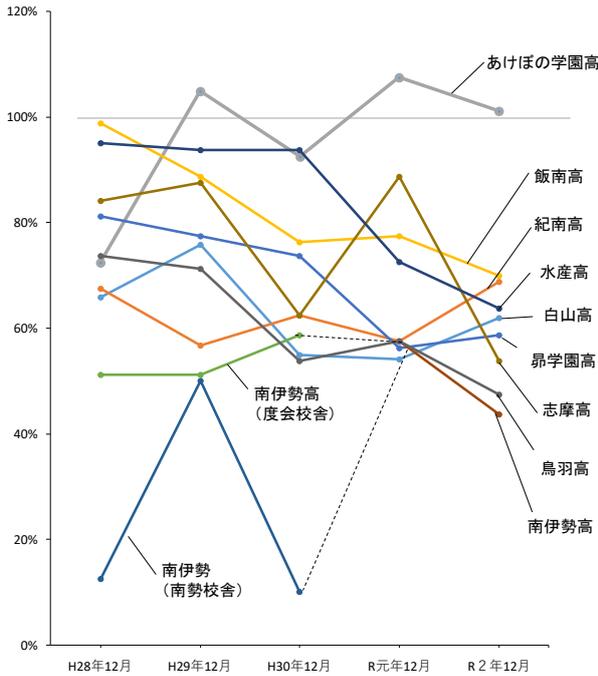
- ・ 空き家片付けプロジェクトに取り組んだ生徒が、地域の活性化を学ぶために地域創生学部の大学へ進学
- ・ 理想の介護施設を研究した生徒が、生活科学科の短大へ進学
- ・ 児童分野に関心がある生徒が「箱庭療法」を研究し、社会福祉学部の大学へ進学

3 入学者の状況

- 県内の全ての中学3年生に対して毎年12月に実施している進路希望調査（12月調査）の結果を見ると、希望者が定員を上回っているのは1校のみにとどまり、他の小規模校への進学希望者は減少傾向にあります。
- 入学者の状況（令和3年度）を見ると、定員充足率が100%を超えているのは1校のみとなっています。

小規模校の進路希望状況（12月調査）の推移（最近5ヶ年）

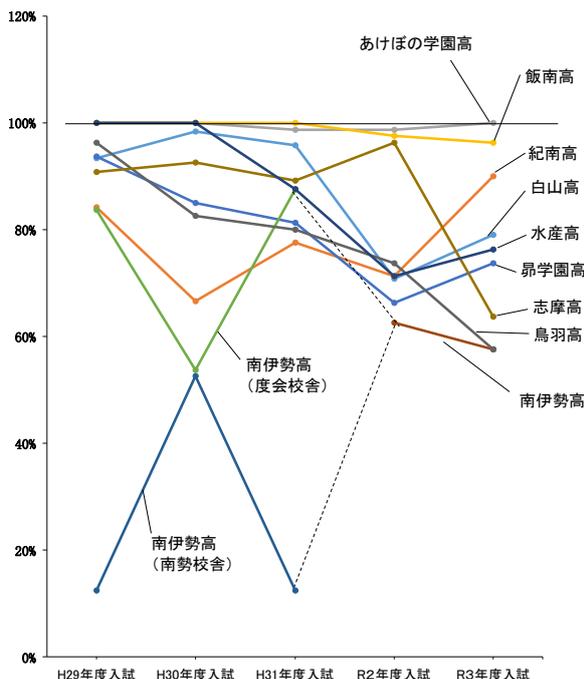
充足率(希望者数/入学定員)の推移グラフ 県内中学生のみ



		H28年12月	H29年12月	H30年12月	R元年12月	R2年12月
白山高	充足率	65.8%	75.8%	55.0%	54.2%	61.9%
	希望者数/定員	79 / 120	91 / 120	66 / 120	65 / 120	65 / 105
あげぼの学園高	充足率	72.5%	105.0%	92.5%	107.5%	101.3%
	希望者数/定員	58 / 80	84 / 80	74 / 80	86 / 80	81 / 80
飯南高	充足率	98.8%	88.8%	76.3%	77.5%	70.0%
	希望者数/定員	79 / 80	71 / 80	61 / 80	62 / 80	56 / 80
昴学園高	充足率	81.3%	77.5%	73.8%	56.3%	58.8%
	希望者数/定員	65 / 80	62 / 80	59 / 80	45 / 80	47 / 80
南伊勢高(度会校舎)	充足率	51.3%	51.3%	58.8%		
	希望者数/定員	41 / 80	41 / 80	47 / 80		
南伊勢高(南勢校舎)	充足率	12.5%	50.0%	10.0%		
	希望者数/定員	5 / 40	20 / 40	4 / 40		
南伊勢高	充足率				57.5%	43.8%
	希望者数/定員				46 / 80	35 / 80
鳥羽高	充足率	73.8%	71.3%	53.8%	57.5%	47.5%
	希望者数/定員	59 / 80	57 / 80	43 / 80	46 / 80	38 / 80
志摩高	充足率	84.2%	87.5%	62.5%	88.8%	53.8%
	希望者数/定員	101 / 120	105 / 120	75 / 120	71 / 80	43 / 80
水産高	充足率	95.0%	93.8%	93.8%	72.5%	63.8%
	希望者数/定員	76 / 80	75 / 80	75 / 80	58 / 80	51 / 80
紀南高	充足率	67.5%	56.7%	62.5%	57.5%	68.8%
	希望者数/定員	81 / 120	68 / 120	50 / 80	46 / 80	55 / 80

小規模校の入学者状況の推移（最近5ヶ年）

充足率(入学者数/入学定員)の推移グラフ



		H29年度入試	H30年度入試	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試
白山高	充足率	93.3%	98.3%	95.8%	70.8%	79.0%
	入学者数/定員	112 / 120	118 / 120	115 / 120	85 / 120	83 / 105
あげぼの学園高	充足率	100.0%	100.0%	98.8%	98.8%	100.0%
	入学者数/定員	80 / 80	80 / 80	79 / 80	79 / 80	80 / 80
飯南高	充足率	100.0%	100.0%	100.0%	97.5%	96.3%
	入学者数/定員	80 / 80	80 / 80	80 / 80	78 / 80	77 / 80
昴学園高	充足率	93.8%	85.0%	81.3%	66.3%	73.8%
	入学者数/定員	75 / 80	68 / 80	65 / 80	53 / 80	59 / 80
南伊勢高(度会校舎)	充足率	83.8%	53.8%	87.5%		
	入学者数/定員	67 / 80	43 / 80	70 / 80		
南伊勢高(南勢校舎)	充足率	12.5%	52.5%	12.5%		
	入学者数/定員	5 / 40	21 / 40	5 / 40		
南伊勢高	充足率				62.5%	57.5%
	入学者数/定員				50 / 80	45 / 80
鳥羽高	充足率	96.3%	82.5%	80.0%	73.8%	57.5%
	入学者数/定員	77 / 80	66 / 80	64 / 80	59 / 80	46 / 80
志摩高	充足率	90.8%	92.5%	89.2%	96.3%	63.8%
	入学者数/定員	109 / 120	111 / 120	107 / 120	77 / 80	51 / 80
水産高	充足率	100.0%	100.0%	87.5%	71.3%	76.3%
	入学者数/定員	80 / 80	80 / 80	70 / 80	57 / 80	61 / 80
紀南高	充足率	84.2%	66.7%	77.5%	71.3%	90.0%
	入学者数/定員	101 / 120	80 / 120	62 / 80	57 / 80	72 / 80

4 小規模校活性化の総括的な検証

高等学校では、生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけることが重要とされています。生徒数や教員数が少ない小規模校では、地域人材を活用し地域を学びの場とした教育や個々の生徒に対応した丁寧な指導によって、教育内容の充実とともに生徒の進路実現、生徒の満足度の向上などに結び付けてきました。

一方で、近年生徒の学びの多様化が進む中、小規模校では専門性の高い科目や幅広い部活動の開設ができなかつたりするなど、生徒のニーズには対応しきれず、高校の魅力が大きく向上しなかった一因と考えられます。その結果、ほとんどの小規模校においては、地域の中学校卒業生数が減少する中、地元の中学校からの進学率はある程度維持されたものの、欠員が多く生じる状況となりました。

また、教員数も減少する中、他校では複数で担当する校務分掌を一人の教員が担当したり、複数の係を兼務したりするなど、教員一人が担う業務の種類が多くなるうえに、一教科の担当教員が一人となるなど、特に若い教員にとっては研修機会の確保が十分に取れない状況となっています。

今後さらに地域の中学校卒業生数の減少が見込まれる中、これまでのような形での小規模校の学びを維持していくことは難しくなると考えられます。このため、地域全体の視点から子どもたちの学びのあり方を考え、地域と連携した学習などの小規模校が培ってきた学びを継続することも含め、今後の少子化の中でのより良い学習環境について検討していく必要があります。

(活性化の取組について)

- ・ 各学校では、地域住民、企業、行政の支援を得ながら、地域と高等学校の連携・協働体制が構築され、生徒の学習環境の向上につながり、地域を学びの場とした学校独自の課題解決型学習が進んだ。
- ・ 広報誌への記事掲載、HPやSNSでの情報発信、小学校への出前講座や交流活動等、さまざまな広報活動に加え、生徒による地域でのボランティア活動や地域イベント等での地域活性化に貢献する課外活動により、地域における小規模校への理解は少しずつ進んできた。
- ・ 様々な取組の中には、生徒のニーズと必ずしもマッチしないものもあり、継続的な取組とするための改善が必要な取組もある。

(生徒の進路実現について)

- ・ 多くの学校では継続的な学び直しの取組による基礎学力の定着等により生徒の進路実現につなげているものの、地元企業への就職状況等に目立った変化はなかった。
- ・ 小規模校では、希望者が少ないために大学進学のための専門性が高い授業が開設しにくく、また、教員数が少ないために専門に特化した教員を配置しにくい状況にある。そのような状況下でも生徒の個別の希望に対応する補習等によって、自らの将来に対する目的意識を持ちながら大学へ進学する生徒の進路が実現された。

(入学者の状況について)

- 地元の中学校からの進学者の割合は維持されたものの、地域の中学校卒業者の大幅な減少の影響もあり、活性化期間前よりもむしろ状況は厳しく、令和3年度に定員を満たしている小規模校は1校のみであった。活性化期間前の平成29年度と令和3年度を比較すると、平成29年度の小規模校全体での入学者数(H29:786人→R3:574人)と定員に対する充足率(H29約89%→R3:約77%)の双方とも低下しており、活性化の取組が志願者の増加にはつながっていない状況である。
- また、各地域の地元中学校からの進学率の推移をみると、広範囲から生徒が集まる昴学園高校、白山高校、水産高校、鳥羽高校では進学率は多少下降傾向である。通学地域が限られる地域の高校は、あけぼの学園高校は令和3年度唯一欠員がない小規模校で、伊賀市内からの進学率も上昇傾向であり、飯南高校も地元からの進学率は上昇傾向にある。一方、志摩高校は志摩市内からの進学率は大きく下降し、南伊勢高校南勢校舎、度会校舎は年度により大きく変動しており、上昇傾向とは言えない。また、紀南高校も地元からの進学率は下降傾向にある。
- 県外生の入学をめざして、全ての小規模校において「保護者の転住を伴わない県外からの志願者の受入制度」を設けたが、この制度を含めて県外からの入学が実現したのは、白山高校、水産高校、紀南高校、昴学園高校、あけぼの学園高校である。県外生の募集に関しては、下宿等の環境整備、市町の支援状況等の受け入れ態勢が課題である。

(その他 学校の状況について)

- 小規模校は教員数は少ないが、生徒数も少ないこともあって、きめ細かな指導や個々の生徒にあった丁寧な対応ができる一方で、教科指導では専門分野が限られて開設できない科目があったり、部活動の開設数も1校平均13.5~14.5部と少なく、団体種目の活動を多く設けることが難しくなったりするなど、生徒にとって高校の魅力が向上しにくい原因の一つになっている。
 - 学級減に伴って教員配置数が減少する中、他校では複数で担当する校務分掌を一人の教員が担当したり、複数の係を兼務したりするなど、教員一人が担う業務の種類が多くなっている。また、一教科の担当教員が一人となるなど、特に若い教員にとって研修機会の確保が十分でない状況となっている。
 - 今後さらなる少子化に伴って学校の小規模化が進むと、生徒の希望に沿った選択科目の設置や幅広い部活動ができないなど、現在の教育内容を維持することは困難となることが想定される。
- それぞれの学校別活性化協議会の検証結果については、地域協議会(伊賀、伊勢志摩、紀南)で共有し、そこでの協議もふまえながら地域における今後の高校のあり方について検討を進めています。

【小規模校（9校10校舎）全体の入学者の状況】

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度
総募集定員数(人)	880	880	880	840	760	745
総入学者数(人)	782	786	747	717	595	574
総欠員数(人)	98	94	133	123	165	171
充足率	88.9%	89.3%	84.9%	85.4%	78.3%	77.0%

【小規模校 地元中学からの進学と県外からの入学生の状況】

入学年度	白山高校(地元中学:一志、白山、美杉、嬉野)		白山高校 県外入学生	
	4中学出身者	4中学卒業生数		
H29	26	6.6%	393	4
H30	27	6.7%	405	2
H31	15	4.0%	376	7
R2	19	4.7%	406	8
R3	22	5.7%	383	2

入学年度	飯南高校(地元中学:飯南、飯高)		飯南高校 県外入学生	
	2中学出身者	2中学卒業生数		
H29	20	28.2%	71	0
H30	15	25.9%	58	0
H31	16	29.1%	55	0
R2	19	33.9%	56	0
R3	17	31.5%	54	0

入学年度	昂学園高校(地元中学:大台、宮川)		昂学園高校 県外入学生	
	2中学出身者	2中学卒業生数		
H29	10	13.2%	76	0
H30	9	10.8%	83	0
H31	11	16.2%	68	0
R2	10	13.9%	72	3
R3	8	13.3%	60	9

入学年度	南伊勢高南勢(地元中学:南勢、南島)		南勢校舎 県外入学生	
	2中学出身者	2中学卒業生数		
H29	5	5.6%	89	0
H30	20	25.3%	79	0
H31	4	6.3%	64	0
R2	13	25.5%	51	0
R3	7	11.9%	59	0

入学年度	南伊勢高度会(地元中学:度会)		度会校舎 県外入学生	
	度会中学出身者	度会中学卒業生数		
H29	19	24.7%	77	0
H30	6	7.6%	79	0
H31	21	24.4%	86	0
R2	9	12.9%	70	0
R3	8	14.5%	55	0

入学年度	鳥羽高校(地元中学:鳥羽市内中学)		鳥羽高校 県外入学生	
	鳥羽市内中学出身者	鳥羽市内中学卒業生数		
H29	23	12.8%	180	0
H30	25	13.8%	181	0
H31	9	6.4%	140	0
R2	18	13.6%	132	1
R3	14	9.4%	149	0

入学年度	志摩高校(地元中学:志摩市内中学)		志摩高校 県外入学生	
	志摩市内中学出身者	志摩市内中学卒業生数		
H29	99	22.0%	449	0
H30	98	22.7%	432	0
H31	90	22.5%	400	0
R2	72	18.5%	389	0
R3	47	15.0%	313	0

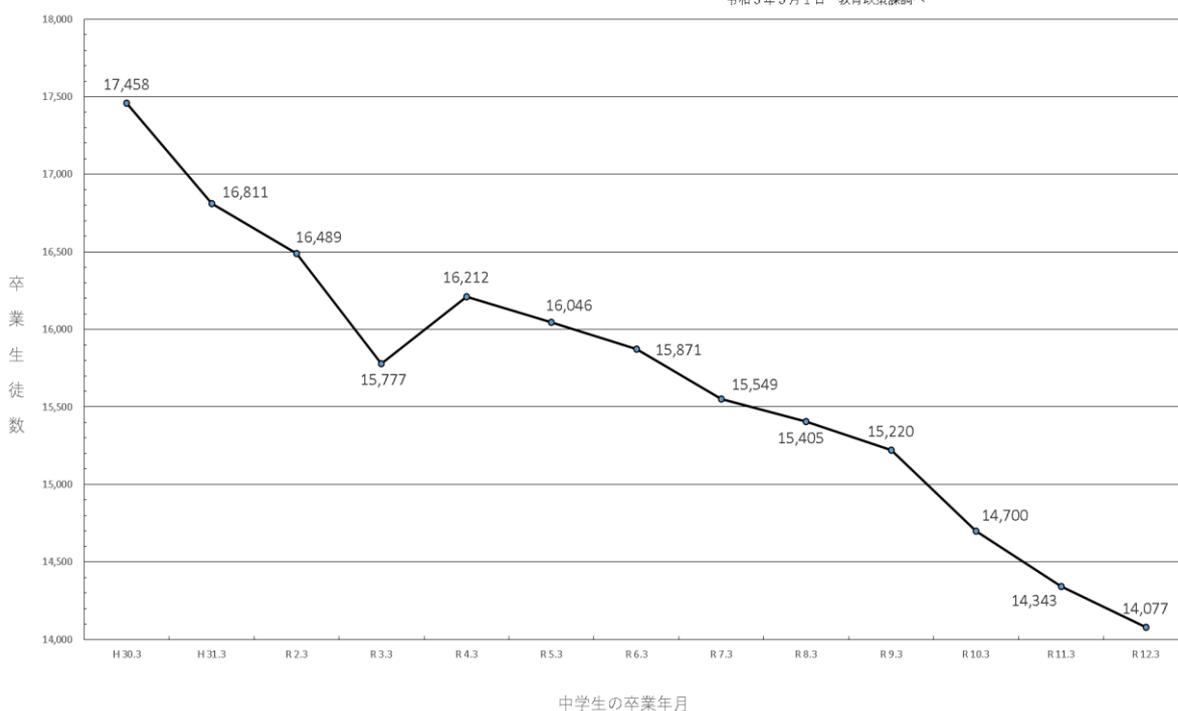
入学年度	水産高校(地元中学:志摩市内中学)		水産高校 県外入学生	
	志摩市内中学出身者	志摩市内中学卒業生数		
H29	67	14.9%	449	3
H30	54	12.5%	432	4
H31	48	12.0%	400	4
R2	40	10.3%	389	2
R3	37	11.8%	313	8

入学年度	あけぼの学園高校(地元中学:伊賀市内中学)		あけぼの 学園高校 県外入学生	
	伊賀市内中学出身者	伊賀市内中学卒業生数		
H29	31	4.1%	761	0
H30	36	4.8%	748	0
H31	41	5.5%	743	1
R2	50	6.8%	735	1
R3	44	6.1%	724	0

入学年度	紀南高校(地元中学:南牟婁郡内中学)		紀南高校 県外入学生	
	南牟婁郡内中学出身者	南牟婁郡内中学卒業生数		
H29	68	32.7%	208	5
H30	56	30.1%	186	2
H31	34	19.8%	172	1
R2	35	24.5%	143	5
R3	42	26.8%	157	2

三重県中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）

令和3年5月1日 教育政策課調べ



【三重県 中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）】

令和3年5月1日 教育政策課調べ

		H 30.3	H 31.3	R 2.3	R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3
		卒業	卒業	卒業	卒業	現中3	現中2	現中1	現小6	現小5	現小4	現小3	現小2	現小1
桑名	卒業生数	2,021	2,048	1,986	1,941	1,968	1,983	1,951	1,979	1,918	1,920	1,868	1,844	1,808
	前年度対比		27	-62	-45	27	15	-32	28	-61	2	-52	-24	-36
	R3.3対比					27	42	10	38	-23	-21	-73	-97	-133
四日市	卒業生数	3,844	3,637	3,578	3,418	3,636	3,442	3,433	3,418	3,503	3,373	3,335	3,248	3,110
	前年度対比		-207	-59	-160	218	-194	-9	-15	85	-130	-38	-87	-138
	R3.3対比					218	24	15	0	85	-45	-83	-170	-308
小計	卒業生数	5,865	5,685	5,564	5,359	5,604	5,425	5,384	5,397	5,421	5,293	5,203	5,092	4,918
	前年度対比		-180	-121	-205	245	-179	-41	13	24	-128	-90	-111	-174
	R3.3対比					245	66	25	38	62	-66	-156	-267	-441
鈴鹿	卒業生数	2,553	2,458	2,416	2,259	2,413	2,219	2,427	2,253	2,221	2,207	2,071	2,103	2,087
	前年度対比		-95	-42	-157	154	-194	208	-174	-32	-14	-136	32	-16
	R3.3対比					154	-40	168	-6	-38	-52	-188	-156	-172
津	卒業生数	2,684	2,614	2,686	2,586	2,516	2,666	2,615	2,496	2,503	2,443	2,399	2,360	2,314
	前年度対比		-70	72	-100	-70	150	-51	-119	7	-60	-44	-39	-46
	R3.3対比					-70	80	29	-90	-83	-143	-187	-226	-272
伊賀	卒業生数	1,549	1,503	1,449	1,429	1,440	1,398	1,385	1,356	1,315	1,332	1,285	1,237	1,192
	前年度対比		-46	-54	-20	11	-42	-13	-29	-41	17	-47	-48	-45
	R3.3対比					11	-31	-44	-73	-114	-97	-144	-192	-237
小計	卒業生数	6,786	6,575	6,551	6,274	6,369	6,283	6,427	6,105	6,039	5,982	5,755	5,700	5,593
	前年度対比		-211	-24	-277	95	-86	144	-322	-66	-57	-227	-55	-107
	R3.3対比					95	9	153	-169	-235	-292	-519	-574	-681
松阪	卒業生数	2,003	1,931	1,924	1,801	1,842	1,931	1,847	1,856	1,791	1,772	1,742	1,560	1,607
	前年度対比		-72	-7	-123	41	89	-84	9	-65	-19	-30	-182	47
	R3.3対比					41	130	46	55	-10	-29	-59	-241	-194
伊勢	卒業生数	2,192	2,079	1,966	1,827	1,879	1,927	1,737	1,768	1,723	1,737	1,598	1,563	1,612
	前年度対比		-113	-113	-139	52	48	-190	31	-45	14	-139	-35	49
	R3.3対比					52	100	-90	-59	-104	-90	-229	-264	-215
尾鷲	卒業生数	281	237	228	242	248	218	212	192	192	203	162	170	143
	前年度対比		-44	-9	14	6	-30	-6	-20	0	11	-41	8	-27
	R3.3対比					6	-24	-30	-50	-50	-39	-80	-72	-99
熊野	卒業生数	331	304	256	274	270	262	264	231	239	233	240	258	204
	前年度対比		-27	-48	18	-4	-8	2	-33	8	-6	7	18	-54
	R3.3対比					-4	-12	-10	-43	-35	-41	-34	-16	-70
小計	卒業生数	4,807	4,551	4,374	4,144	4,239	4,338	4,060	4,047	3,945	3,945	3,742	3,551	3,566
	前年度対比		-256	-177	-230	95	99	-278	-13	-102	0	-203	-191	15
	R3.3対比					95	194	-84	-97	-199	-199	-402	-593	-578
県内合計	卒業生数	17,458	16,811	16,489	15,777	16,212	16,046	15,871	15,549	15,405	15,220	14,700	14,343	14,077
	前年度対比		-647	-322	-712	435	-166	-175	-322	-144	-185	-520	-357	-266
	R3.3対比					435	269	94	-228	-372	-557	-1,077	-1,434	-1,700